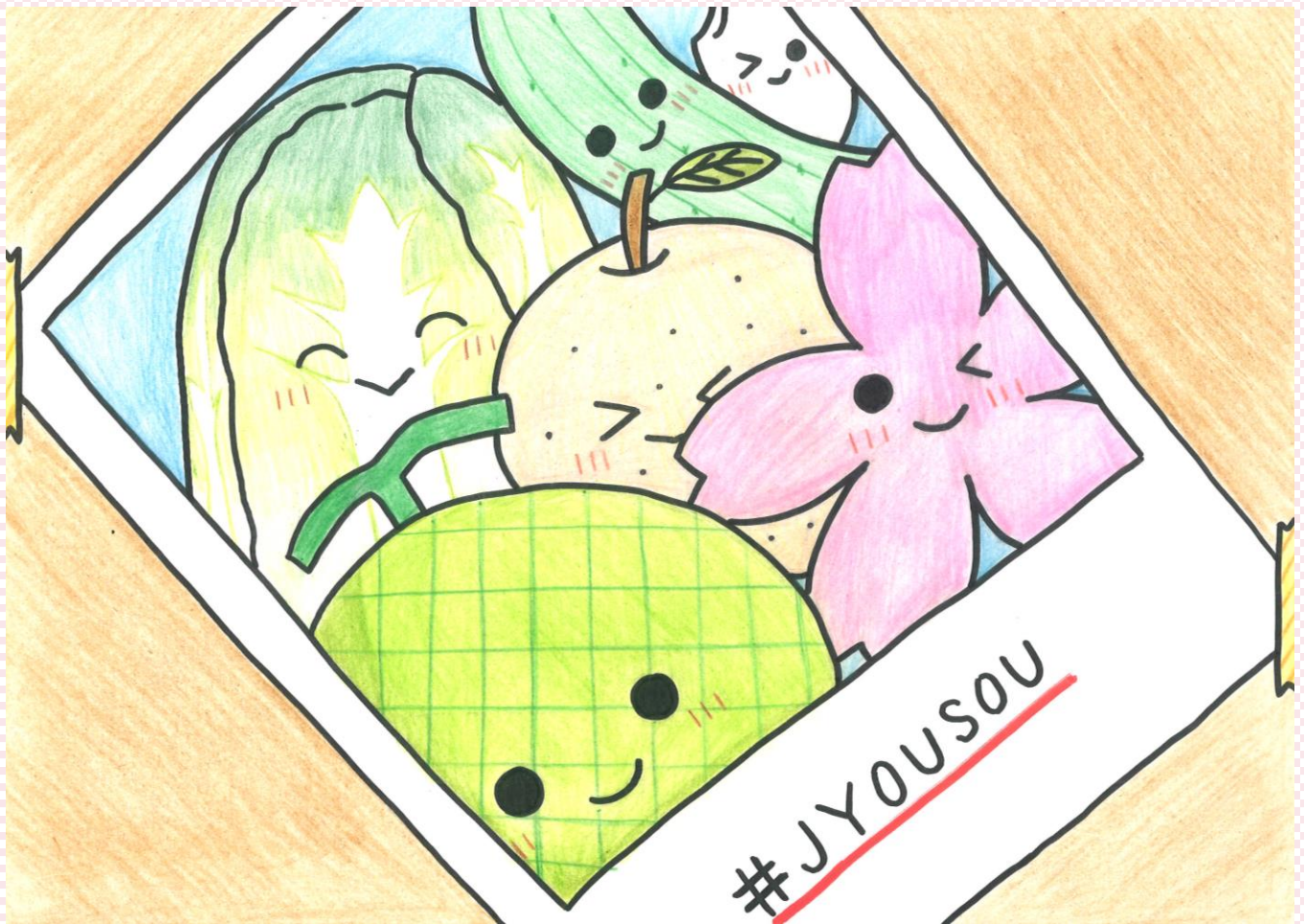


VI 産業振興



『優秀賞』 石下紫峰高等学校 2年

特産品をキャラクターっぽくかわいく描きました。チェキにうつっているようにみせました。

【施策の目標】

1. 産業間の融合により、6次産業化を進める
2. 環境と共生し、付加価値を生み出す農業を育てる
3. 雇用を高め、賑わいをもたらす商工業・観光を振興する

【主要成果指標】

① 常総市内を目的地とした経路検索の回数				
現状値 (2021年度)	4,924回	→	目標値 (2027年度)	8,800回
道の駅常総をはじめとした圏央道常総IC周辺施設の開業やアウトドアシティの推進などにより、市内を訪れる観光客数を間接的に表している指標である経路検索回数の増加を目指します。 ※掲載している数値は、国が運営する地域経済分析システム「RESAS（リーサス）」に掲載されているデータを参照しています。				
② 道の駅常総レジ通過者数				
現状値 (2021年度)	—	→	目標値 (2027年度)	800,000人
これからの本市の観光拠点となる「道の駅常総」では、運営に民間企業のノウハウを取り入れること、周辺施設と連携したイベントを開催することなどにより誘客効果を最大化し、レジ通過者年間80万人を目指します。				
③ 市が関与するアウトドアイベント参加者数				
現状値 (2021年度)	15,536人	→	目標値 (2027年度)	28,000人
首都圏近郊でありながら豊かな自然環境を有するという本市の強みを生かし、「アウトドアシティ」として屋外で行う体験型活動を積極的に推進することで、関係人口の拡大を目指します。				



VI-1-1

アグリサイエンスバレー・道の駅常総



**基 本
方 針**

アグリサイエンスバレー事業による効果を市内全域に波及させるとともに、地域産業の活性化と新しい産業の創出を推進します。

現 状

- 圏央道常総IC周辺において「食と農と健康」をテーマとした産業団地を形成（アグリサイエンスバレー事業）しています。
- 都市エリアを市街化区域に編入し、進出企業を誘致しました。
- 農地エリアの基盤整備を行い、大規模農業などに取り組む農業法人などを誘致しました。
- 道の駅については、指定管理者制度により実績のある民間企業を指定し、市内企業として取り組んでいます。

課 題

- アグリサイエンスバレーの取り組みを市内全域に波及させる必要があります。
- アグリサイエンスバレーエリアに立地した企業の操業環境を整える必要があります。
- 道の駅や民間集客施設、観光農園、都市公園を含めた交流人口拡大の取り組みを進める必要があります。
- 道の駅の開業を契機として、地域内での農商工連携を推進し、地域産業の活性化に取り組む必要があります。



アグリサイエンスバレーにオープンした
空中いちご園「グランベリー大地」



企業エリアのイメージ

施策内容	主な取り組み
アグリサイエンスバレーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○都市エリアと農地エリアの連携による、産業・雇用・交流の充実をエリアだけでなく、市内全域へ波及するよう取り組みます。 ○アグリサイエンスバレー事業におけるスマート農業を推進し、市内農業のデジタル化の寄与に取り組みます。 ○アグリサイエンスバレー事業の効果を活用し、「じょうそう観光地域づくりL a b o」などを通じて、新しい地域ビジネスの創出を推進します。
道の駅を核とした賑わい創出と観光地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○民間集客施設、観光農園、都市公園と連携し、さまざまなイベント開催や情報発信を行い、集客効果の拡大に取り組みます。 ○道の駅への来訪者に対し、市内への来訪動機を提供するため、地域資源とのネットワーク形成に取り組みます。 ○道の駅内のデジタルサイネージなどを活用した観光アプリとE Cサイトの導入を検討し、デジタル化による観光D Xと決済データを活用したマーケティング支援の寄与に取り組みます。
道の駅を核とした地域産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅を核とした農商工連携を推進し、地産地消の促進、ブランド化、6次産業化の推進、地域ビジネスの創出など、地域産業の活性化に取り組みます。
道の駅における脱炭素化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅において、太陽光発電設備及び電気自動車用急速充電器を設置し、脱炭素化の推進に寄与します。



アグリサイエンスバレー 完成イメージパース



道の駅常総に設置された電気自動車用急速充電器



新しい地域ビジネスの創出に向けた取り組み
「じょうそう観光地域づくりL a b o」

VI-2-1

農 業



基 本 方 針

農地や農業環境の維持・向上を図り、将来に向けて良好な農業生産環境を確保します。また、農業を支える主体の育成とともに、異業種との交流促進により魅力ある農業環境の整備を進めます。さらに「常総市農業基本計画」に基づき、農家が経営を持続できるような魅力的な産業としての農業を確立します。

現 状

- 農業生産基盤の充実を図るため、三坂地区での土地改良事業を実施しています。
- 遊休農地の活用に向け、農地中間管理機構を活用した農地の集約化を行っています。
- 約240名が認定農業者となっており、認定農業者の連携や情報提供を支援するため、SMSを活用したネットワークを構築しています。
- アグリサイエンスバレー事業に基づき、常総IC周辺では、企業による大規模農業が始まっています。

課 題

- 農業生産基盤施設については、老朽化施設の更新を進める必要があります。
- 経営規模の強化を図るため「人・農地プラン」に基づき、農地の集積と集約化、経営規模の強化に向けた支援を行う必要があります。
- 農業の担い手不足が顕在化しており、意欲のある営農者に重点的な支援を行うとともに、新たに農業に参入する意欲を持つ方への支援が必要です。
- アグリサイエンスバレー事業や道の駅の開業を契機として、農産物の販売機会、販路拡大、商品開発などを強化する必要があります。

施策内容	主な取り組み
農地の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ○農地中間管理機構を活用し、農地の集積・集約化を推進します。 ○将来に向けた農地や生産環境の維持に向け「人・農地プラン」に基づき、関係機関と連携し、農地利用の最適化を目指します。 ○流域における水災害の軽減に資するため、農地・農業用施設を活用した流域治水を推進します。
担い手農家の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○経営意欲のある農家に対し、経営規模の拡大や経営の安定化を支援するため、関係機関と連携しながら経営指導を行います。 ○農業への新規参入を促進するため、支援制度の活用や農地の確保などについて、農地中間管理機構をはじめとする関係組織との連携による支援を行います。 ○小規模農家の経営強化に向け、生産団体の育成を促進するとともに、法人による農業経営参入を支援します。
環境と共生した農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷軽減のため「みどりの食料システム戦略」に基づき、中長期的な観点から調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取り組みと、カーボンニュートラルなどのイノベーションを推進します。 ○畜産農家と耕種農家の堆肥利用や有機栽培などについて支援を行います。
農業経営の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○農業生産環境の維持を図るため、農業基盤施設について計画的な更新を進めます。 ○農家の経営体制の強化、作付け品種の多様化、主食用米からの転換などを促進するため、関係機関と連携しながら、経営指導の強化に取り組みます。 ○地域の農業において中心的な役割を果たすことが見込まれる農業者（中心経営体）、当該地域における農業のあり方などを明確化するため「人・農地プラン」を土台に、地域計画の策定・実行に取り組みます。 ○道の駅を活用し、市内の農産物、加工品などの販売強化及び商品開発による新たな「常総ブランド」創出に取り組み、農業所得の向上を目指します。
地産地消・6次産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅を本市の農産物・加工品の魅力や美味しさを味わえる施設とし、地産地消と地場製品のPRを推進します。 ○道の駅を核とした地域内での生産・加工・流通・販売の仕組みづくりに取り組み、6次産業化を推進します。

VI-3-1 商業



基本方針

商品やサービスを提供する市内事業者に対する支援を行い、道の駅との連携を図ることにより、賑わいある市街地づくりを目指します。

現状

- アグリサイエンスバレー事業による効果を、新しい地域ビジネスの創出に生かすため、令和5年度まで「じょうそう観光地域づくりLabo」を実施しています。
- 市内事業者の販売機会を創出するため、事業者と連携し「常総市役所テイクアウトマルシェ」を開催しています。
- 商工会と連携し、中小事業者の経営改善に向け、国や県の各種制度を活用した支援を行っています。

課題

- 市内の中小事業者を支援するため、商工会と連携し、各種制度を活用した経営支援を行うとともに、新規開業などの支援を行う必要があります。
- 道の駅やサイクリングロードといった、新たな観光交流資源が整備されたことから、地域の歴史や文化資源を活用した交流や拠点づくりに取り組む必要があります。

施策内容	主な取り組み
商品・サービス提供事業者の支援	○道の駅やサイクリングロードとの連携による商品・サービス提供機会を創出するため、道の駅でのイベントやサイクリングロード利用者へ市内店舗の情報提供を行います。
まちの賑わいの創出	○水海道市街地や石下市街地においては、商業・サービス提供機能の充実を支援するとともに、駅や公共施設を活用した拠点づくりにより、市街地への来訪・滞留人口の増加を進めます。 ○水海道市街地や石下市街地における賑わい創出に向け、既存のイベントの充実に加え、道の駅と連携したイベント開催などについて取り組みます。
中小事業者に対する支援	○引き続き中小事業者の経営改善を支援するため、各種制度の活用を促進します。

VI-3-2 工業



**基 本
方 針**

地域の雇用に必要な役割がある企業の経営を支援し、地域として「稼ぐ力」を養います。

現 状

課 題

■ 市内にある4つの工業団地や圏央道常総IC周辺を中心に企業が立地しています。

■ 「常総市産業振興ビジョン」に基づき、立地する企業の経営支援を強化する必要があります。

施策内容	主な取り組み
企業と連携した生活環境の維持	○既存の工業団地に立地する企業及び新規に進出する企業に対しては「常総市工業懇話会」との連携を図りながら、生活環境の維持・向上に取り組めます。 ○鬼怒川西部地区での交通渋滞の緩和に向け、関係部署と連携し必要な対策を講じます。

VI-3-3

企業誘致



基本方針

首都圏をはじめとする関東一円への交通アクセスの利便性を生かし、雇用機会や就業の場を確保できる企業誘致を図ります。

現状

- アグリサイエンスバレー事業地内については、都市エリア・農地エリア共に誘致が完了しています。
- 鬼怒川ふれあい道路沿線の工業団地周辺では、企業の進出意欲が高まっています。
- 圏央道の供用に伴い、企業からの産業用地に関する問い合わせが増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症や働き方改革を背景に、地方でのサテライトオフィスやテレワークなどの需要が見られています。

課題

- 企業の立地需要に対応できる産業用地が不足しています。
- 企業誘致を推進するため、立地に際しての税負担の減免や就業者の確保などについての支援が必要です。
- サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、IT・情報分野の企業誘致について検討が必要です。

施策内容	主な取り組み
産業用地の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○「新産業団地創出基本計画」や、これまでの調査・検討に基づき、企業誘致に向けた産業用地の創出を推進します。 ○企業の進出需要に迅速に対応するため、官民連携による産業用地の創出を推進します。
企業立地に向けた情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワーク常総と連携し、進出企業に対する雇用の確保など就労支援を推進します。 ○すでに実施している企業誘致に向けた支援メニューを広く情報発信し、制度の周知及び活用を推進します。 ○進出企業に対し、空き家などの住まいに関する情報提供を行うなど、雇用者の市内定住を促します。
企業立地に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の操業環境についての情報提供を推進するとともに、すでに実施している支援メニューについての充実・強化を図ります。 ○市内の産業用地について、情報提供の充実を図るとともに、進出を希望する民間事業者などとの連携強化に取り組みます。 ○テレワーク需要の増加に対応し、市内の空き店舗や空き家を活用したオフィス確保を推進します。



旧酒屋をリノベーションしたコワーキングスペース（豊岡町）



水海道あすなろの里に設置したコワーキングスペース

VI-3-4 観光・交流



基本方針

地域資源の活用に取り組み、体験型や滞在型など多様な観光メニューの充実を推進します。

現状

- コロナ禍において、観光・交流事業は落ち込んでいましたが、徐々に回復しています。
- 指定管理者制度を活用し、民間事業者により水海道あすなろの里のキャンプ場がリニューアルしました。
- 観光客向けのPRなどについて、他自治体との広域連携及び地元高校との連携強化を図っています。
- 鬼怒川堤防が完成したことにより、サイクリングロードとして活用できるようになりました。
- フィルムコミッションについても、新型コロナウイルス感染症の影響により、近年の活動は低調になっています。

課題

- 道の駅を基点とした観光ルートの設定、サインの整備などに取り組むとともに、地域資源を活用した体験や学びなどの要素を取り入れた観光商品の開発が必要です。
- アウトドア観光は今後、市の観光振興において非常に重要です。新たなサービスや雇用の創出などによる産業・経済の好循環を生み出すためにも、大きなポテンシャルを持つ自然などの地域資源を磨き上げ、国内外に発信していく必要があります。
- 観光交流の促進に向け、SNSでの情報発信や観光パンフレットを充実させる必要があります。
- 千姫まつり、常総きぬ川花火大会など、従来から実施している観光事業の充実を図る必要があります。
- フィルムコミッションについては、地域の魅力を発信する機会として活用する必要があります。

施策内容	主な取り組み
観光振興の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅の開業を契機に観光振興を推進するため、観光事業者や商工事業者、市観光物産協会との連携体制の強化を図ります。 ○市ホームページやSNSでの情報発信の強化、パンフレット・観光マップのデジタル化などにより来訪者に対する観光情報の提供を充実させます。 ○水海道あすなろの里やサイクリングロード、豊富な水辺などを活用し、アウトドア観光の推進を図っていきます。
観光資源の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○国指定の重要文化財である坂野家住宅や、寺社・仏閣をはじめとする地域の歴史的資源について、維持・保全に取り組むとともに、観光資源としての活用を推進します。
観光商品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活用した観光商品の充実を図るため、水海道あすなろの里の活用、体験事業の創出、サイクリングやロケ地を活用した観光周遊ルートを推進します。 ○地域の農産物や加工品、伝統工芸品などを生かした、お土産物や体験メニューの開発に取り組みます。
フィルムコミッションを通じた発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○市の魅力発信の機会として、フィルムコミッションの充実を図るため、ロケ地情報の発信、受け入れ態勢の強化を進めます。



水海道あすなろの里 キャンプの様子



常総きぬ川花火大会



坂野家住宅で行われた撮影の様子



小貝川で楽しむアウトドア（SUP）

VI-3-5 雇用



基本方針

多様化する働き方やワーク・ライフ・バランスといった潮流に対応しながら、安定した雇用・就労環境の確保に取り組みます。

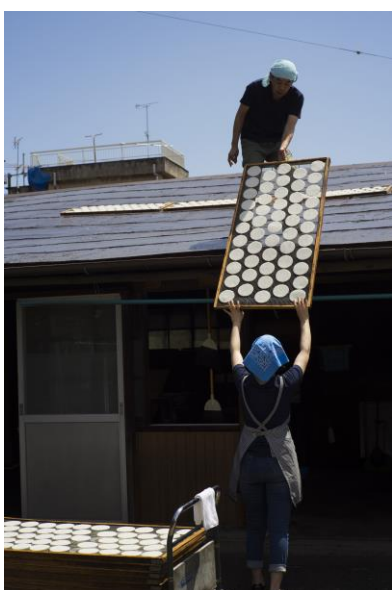
現状

- 「商工会と連携した創業セミナー」を開催しています。また、令和3年度から「じょうそう観光地域づくりLabo」を組織し、新しい地域ビジネスの創出に取り組んでいます。
- 平成30年度からハローワーク常総と連携し、雇用情報の発信、市内企業を見学する高校生向けバスツアーなどを行っています。

課題

- 働き方の多様化、高齢者の就業機会確保への対応が必要となっており、起業・創業を含め、雇用・就労機会の確保に取り組む必要があります。
- 企業における人材確保の難しさが増しており、就業を希望する方とのミスマッチの解消に取り組む必要があります。
- ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画の推進の取り組みと連携しながら、新しい働き方に対応した就業環境づくりに向けた取り組みを行う必要があります。

施策内容	主な取り組み
起業・創業の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「商工会と連携した創業セミナー」や「じょうそう観光地域づくりLabo」により、起業・創業や新しいビジネスの創出を支援します。 ○ コワーキングスペースなど、IT・情報産業などテレワークに対応できる業種に向けた就業環境の創出を進めます。
雇用・就労の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続きハローワーク常総との連携を進め、雇用情報の発信や高校生に向けた体験事業を実施します。 ○ 立地企業における市内からの人材確保や雇用環境向上を促進するため、雇用に関する支援についても充実を図ります。



「常総の匠」 写真提供：茨城県立水海道第一高等学校 写真部